

平成 29 年度
教科に関する科目
国 語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
2. 問題は 2 問とも解答してください。
3. 解答用紙は、1 問につき 1 枚（表のみ）使用してください。
4. 受験番号, 氏名を解答用紙の指定された欄に 2 枚とも必ず記入してください。
5. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 60 分です。
6. 試験が終わるまで退出できません。
7. 「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。
8. 下書きには、問題冊子の余白を使用してください。
9. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

問1 姿勢・口形・発音に関する指導について、「小学校学習指導要領」（平成 20 年文部科学省告示第 27 号）の「第 2 章 第 1 節 国語」では、〔第 1 学年及び第 2 学年〕の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」の指導事項として「ウ 姿勢や口形，声の大きさや速さなどに注意して，はっきりした発音で話すこと。」が示されている。〔第 1 学年及び第 2 学年〕の指導方法について，姿勢・口形・発音の 3 点全ての指導にふれて，句読点・記号も含め 600 字以内で具体的に述べなさい。（540 字を下回らないこと，また解答欄への記述に際し，段落を設ける必要はない。）

問2 「小学校学習指導要領」（平成20年文部科学省告示第27号）の「第2章 第1節 国語」では、〔第1学年及び第2学年〕の「2 内容」「B 書くこと」の指導事項として、以下の項目が挙げられている。

これを参照して、〔第1学年及び第2学年〕において、子どもが「書くこと」が嫌いにならないように文章の誤りをなくしていくには、どんな場面や題材・活動を設け、どのような指導をしたらよいか。具体例を考えて、句読点・記号も含め600字以内で論述しなさい。（540字を下回らないこと、また解答欄への記述に際し、段落を設ける必要はない。）

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。

オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 想像したことなどを文章に書くこと。

イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。

エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。

オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。